平成27年度 独立行政法人国立病院機構甲府病院 病院指標

医療法における病院等の広告規制について（厚生労働省）

1. 年齢階級別退院患者数
2. 診断群分類別患者数等（診療科別患者数上位３位まで）
3. 初発の５大癌のUICC病期分類別並びに再発患者数
4. 成人市中肺炎の重症度別患者数等
5. 脳梗塞のICD10別患者数等
6. 診療科別主要手術別患者数等（診療科別患者数上位３位まで）
7. その他（ＤＩＣ、敗血症、その他の真菌症および手術・術後の合併症の発生率）

年齢階級別退院患者数

ファイルをダウンロード

年齢区分	0～	10～	20～	30～	40～	50～	60～	70～	80～	90～
患者数	523人	326人	182人	196人	171人	119人	210人	248人	310人	88人

当院では小児科病床のほか、成育医療としてNICU・GCUを有しており、山梨県の地域周産期母子医療センターに指定されていることもあり、年齢構成で最も多いのは0～9歳までの新生児や小児科の患者さんで、全体の約23%を占めております。
年齢別で傷病の頻度を見てみますと、10歳代、20歳代は膝疾患が最も多く、スポーツが原因の傷害（ケガ）で治療される学生の患者さんが多くなっております。
30歳代は切迫早産や骨盤位等で帝王切開に至る分娩など産科疾患が半数以上でした。
40歳代～70歳代では膝疾患が最も多くなっておりますが、年齢階級が上がっていくと同時に悪性新生物の患者数が増えております。
80歳代以上では、肺炎などの呼吸器疾患が多いですが、脊椎圧迫骨折（胸椎または腰椎）や大腿骨骨折もあり、他の年齢層と比較すると傷病の頻度は多種多様です。

◇集計方法・定義
・退院患者を10歳刻みの年齢階級別に集計しました。
・年齢階級別に集計することにより、その病院の特徴や患者構成をおおよそ知ることができます。
・年齢は入院時における満年齢を基準と志、90歳以上を1つの階級として設定しています。

診断群分類別患者数等（診療科別患者数上位３位まで）

ファイルをダウンロード

■内科

DPCコード	DPC名称	患者数	平均在院日数（自院）	平均在院日数（全国）	転院率	平均年齢	患者用パス
040080x099x0xx	肺炎、急性気管支炎、急性細気管支炎（15歳以上） 手術・処置等２なし	39人	29.3日	14.3日	5.1%	78.7歳	
040081xx99x00x	誤嚥性肺炎 手術・処置等２なし 副傷病なし	31人	31.7日	21.7日	12.9%	85.6歳	
100070xxxxxxxx	２型糖尿病（糖尿病性ケトアシドーシスを除く。）	30人	18.9日	15.4日	3.3%	71.6歳	

内科で最も多い症例は肺炎、2番目が誤嚥性肺炎となっており、いずれも平均年齢は高齢となっております。そのため重症化しやすいこともあり、平均在院日数も長くなっている傾向があります。
3番目に多い症例は2型糖尿病による血糖コントロール等による入院でした。当院の内科常勤医には糖尿病を専門領域のひとつとしている医師がいますので、糖尿病患者数が多くなっていると思われます。

■小児科

DPCコード	DPC名称	患者数	平均在院日数（自院）	平均在院日数（全国）	転院率	平均年齢	患者用パス
140010x199x00x	妊娠期間短縮、低出産体重に関連する障害（出生時体重2500g以上） 手術・処置等２なし 副傷病なし	98人	11.8日	6.2日	2.0%	0.0歳	
040080x1xxx0xx	肺炎、急性気管支炎、急性細気管支炎（15歳未満） 手術・処置等２なし	78人	6.7日	5.7日	3.8%	3.0歳	
040100xxxxx00x	喘息 手術・処置等２なし 副傷病なし	58人	6.3日	6.3日	6.9%	3.6歳	

当院は未熟児を中心とした周産期医療としてNICUとGCUを有しており、新生児への集中治療を実施しております。そのため、小児科で最も多い症例は新生児疾患の症例で、中でも出生体重が2500g未満の低出生体重児の入院が多くなっております。
2番目、3番目に多い症例はいずれも呼吸器疾患であり、肺炎などの呼吸器感染症による入院としては、秋から冬にかけて多くなっております。

■外科

DPCコード	DPC名称	患者数	平均在院日数（自院）	平均在院日数（全国）	転院率	平均年齢	患者用パス
060335xx0200xx	胆嚢水腫、胆嚢炎等 手術・処置等１なし 手術・処置等２なし	56人	5.9日	7.8日	1.8%	58.5歳	
060035xx0100xx	結腸(虫垂を含む。)の悪性腫瘍 手術・処置等１なし 手術・処置等２なし	12人	17.7日	17.4日	0.0%	69.3歳	
060050xx02x0xx	肝・肝内胆管の悪性腫瘍（続発性を含む。） 手術・処置等２なし	11人	12.7日	16.3日	0.0%	74.1歳	

最も多い症例は胆嚢炎でした。当院では単孔式の腹腔鏡下胆嚢摘出術を実施しており、平均在院日数の短縮につながっていると考えます。
2番目は結腸の悪性腫瘍です。平均在院日数は全国と比較しても大きな差はありません。
3番目は肝臓における悪性腫瘍です。当院では肝臓癌においても腹腔鏡下での手術を行っているため、こちらも平均在院日数の短縮につながっていると考えます。※鼠径ヘルニア手術は短期滞在手術基本料対象のため表には掲載されておりません。平成27年度鼠径ヘルニアの患者数は61人でした。

■整形外科

DPCコード	DPC名称	患者数	平均在院日数（自院）	平均在院日数（全国）	転院率	平均年齢	患者用パス
160620xx01xxxx	肘、膝の外傷（スポーツ障害等を含む。）	545人	20.6日	12.0日	0.0%	34.7歳	
160990xx97x0xx	多部位外傷 手術・処置等２なし	34人	26.2日	22.1日	8.8%	56.5歳	
160800xx01xxxx	股関節大腿近位骨折	33人	28.9日	28.7日	57.6%	85.6歳	

当院の整形外科ではスポーツ膝疾患治療センターを開設しており、特に膝関節疾患の治療を積極的に行っております。そのため、最も多い症例は膝半月板損傷や膝十字靭帯損傷等の膝疾患での手術症例となっており、整形外科全症例数の約62%を占めています。
2番目に多い症例も、膝疾患の多部位外傷でした。
3番目は大腿骨骨折です。当院では他の施設と大腿骨骨折の診療について連携をとっており、慢性期の病院やリハビリ病院等へ転院するケースが多く、転院率は高くなっております。

■脳神経外科

DPCコード	DPC名称	患者数	平均在院日数（自院）	平均在院日数（全国）	転院率	平均年齢	患者用パス
010060x099030x	脳梗塞（JCS10未満） 手術・処置等１なし 手術・処置等２－３あり 副傷病なし	4人	26.8日	18.1日	50.0%	81.8歳	
-	-	-	-	-	-	-	
-	-	-	-	-	-	-	

最も多かった症例は脳梗塞でした。平均年齢81.8歳と高齢での発症となっております。
※1症例以下は集計表に掲載しておりません。

■産婦人科

DPCコード	DPC名称	患者数	平均在院日数（自院）	平均在院日数（全国）	転院率	平均年齢	患者用パス
120180xx01xxxx	胎児及び胎児付属物の異常	32人	9.7日	9.9日	0.0%	34.1歳	
120170xx99x0xx	早産、切迫早産 手術・処置等２なし	21人	28.9日	20.9日	0.0%	30.0歳	
120060xx01xxxx	子宮の良性腫瘍	15人	9.9日	10.2日	0.0%	42.5歳	

最も多い症例は前回のお産が帝王切開だったケースや、骨盤位等により帝王切開を実施したものです。当院は山梨県の地域周産期母子医療センターに指定されていることもあり、婦人科系疾患より産科系の症例数が多く、上位2つは妊娠、分娩にかかる症例となっております。
3番目に多い症例については、子宮筋腫（子宮平滑筋腫）となっております。

■眼科

DPCコード	DPC名称	患者数	平均在院日数（自院）	平均在院日数（全国）	転院率	平均年齢	患者用パス
-	-	-	-	-	-	-	
-	-	-	-	-	-	-	
-	-	-	-	-	-	-	

眼科における入院は全て白内障手術による入院です。白内障手術である水晶体再建術は短期滞在手術基本料対象のため表には掲載しておりません。
平成27年度の白内障（水晶体再建術を施行した患者）の患者数は52人でした。

■神経内科

DPCコード	DPC名称	患者数	平均在院日数（自院）	平均在院日数（全国）	転院率	平均年齢	患者用パス
010160xx99x00x	パーキンソン病 手術・処置等２なし 副傷病なし	6人	33.5日	19.0日	33.3%	74.8歳	
010060x099030x	脳梗塞（JCS10未満） 手術・処置等１なし 手術・処置等２－３あり 副傷病なし	4人	29.5日	18.1日	25.0%	82.3歳	
010061xxxxx0xx	一過性脳虚血発作 手術・処置等２なし	3人	3.0日	6.3日	0.0%	81.3歳	

神経内科で最も多い症例はパーキンソン病でした。
2番目が脳梗塞、3番目が一過性脳虚血発作の症例となっており、いずれも高齢での発症となっています。

初発の５大癌のUICC病期分類別並びに再発患者数

ファイルをダウンロード

	初発					再発	病期分類基準（※）	版数
	Stage I	Stage II	Stage III	Stage IV	不明			
胃癌	9人	4人	6人	13人	3人	2人	1	7版
大腸癌	7人	12人	14人	6人	1人	3人	1	7版
乳癌	8人	4人	3人	0人	0人	3人	1	7版
肺癌	0人	0人	0人	0人	0人	0人	1	7版
肝癌	5人	5人	1人	0人	0人	0人	1	7版

※ 1：UICC TNM分類，2：癌取扱い規約

患者数で最も多いのは大腸癌で、次いで胃癌、乳癌、肝癌と続きます。
肺癌については当院は呼吸器科での入院診療は行っていないため該当症例はありません。
上記の表でステージ別の患者数を見ますと、乳癌、肝癌は比較的早期がんの割合が多くなっておりますが、大腸癌ではステージⅡ、Ⅲといった進行した癌が多くなっていることが分かります。また胃癌については、ステージⅣの症例数が多いことから、比較的重症な患者さんが多いことが分かります。
当院では胃癌、大腸癌、肝癌については、より体への負担が少なく病気を根治に導くことを目的として腹腔鏡下による手術を積極的に行っております。

◇集計方法・定義
・全国で罹患率の高い、5大癌（胃癌、大腸癌、乳癌、肺癌、肝癌）の患者さんの人数を、病期分類UICC分類）別および再発に分けて集計しました。
・集計期間中に複数回入退院を繰り返した場合にも、1症例1カウントとして集計しています。
・「初発」として集計された症例は、「再発」には集計されません。

成人市中肺炎の重症度別患者数等

ファイルをダウンロード

	患者数	平均在院日数	平均年齢
重症度 0	8人	12.5日	44.6歳
重症度 1	4人	27.8日	82.8歳
重症度 2	10人	20.0日	73.3歳
重症度 3	8人	48.6日	85.8歳
重症度 4	1人	56.0日	100.0歳
重症度 5	0人	-	-
不明	0人	-	-

患者数が最も多いのは、重症度2（中等症）の症例でした。重症度が重くなるにつれ平均年齢が高くなっており、重症度3以上の症例については平均年齢85歳以上とかなりの高齢層となっております。
平均在院日数をみても、重症度が重くなるにつれ長くなっていることが分かります。

◇集計方法・定義
・成人（15歳以上）の市中肺炎の患者さんを重症度別に、患者数、平均在院日数、平均年齢を集計しました。
※市中肺炎とは、日常生活の中で罹患する肺炎をいいます。
・入院のきっかけとなった傷病名、および最も医療資源を投入した傷病名が、肺炎、急性気管支炎、急性細気管支炎（DPC：040080相当）の症例を集計対象としています。
・インフルエンザ等のウイルス肺炎（DPC：040070相当）および誤嚥性肺炎（DPC：040081相当）は集計対象から除外しています。
・重症度は、日本呼吸器学会の「成人市中肺炎診療ガイドライン」によるA-DROPスコアを用います。

脳梗塞のICD10別患者数等 ファイルをダウンロード

ICD10	傷病名	発症日から	患者数	平均在院日数	平均年齢	転院率
G45$	一過性脳虚血発作及び関連症候群	3日以内	6人	7.7日	85.2歳	0.0%
		その他	0人	-	-	-
G46$	脳血管疾患における脳の血管(性)症候群	-	0人	-	-	-
I63$	脳梗塞	3日以内	13人	29.8日	84.8歳	46.2%
		その他	2人	15.5日	79.5歳	0.0%
I65$	脳実質外動脈の閉塞及び狭窄，脳梗塞に至らなかったもの	-	0人	-	-	-
I66$	脳動脈の閉塞及び狭窄，脳梗塞に至らなかったもの	-	0人	-	-	-
I675	もやもや病<ウイリス動脈輪閉塞症>	-	0人	-	-	-
I679	脳血管疾患，詳細不明	-	0人	-	-	-

I63$ 脳梗塞が最も多く、次いでG45$ 一過性脳虚血発作となっております。いずれも発症日から「3日以内」の急性期に入院される患者さんがほとんどであり、早期からの入院治療が行われていることが分かります。
脳梗塞については発症時の平均年齢をみてみると、「その他」が79.5歳に対し、「3日以内」では84.8歳と高齢での発症率が高くなっております。

◇集計方法・定義
・脳梗塞の病型別の患者数、平均在院日数、平均年齢、転院率を集計しました。
・最も医療資源を投入した傷病名のICD-10別に集計しています。
・発症日から「3日以内」、「その他」に分けて掲載しております。

診療科別主要手術別患者数等（診療科別患者数上位３位まで） ファイルをダウンロード

■内科

Kコード	名称	患者数	平均術前日数	平均術後日数	転院率	平均年齢	患者用パス
K635	胸水・腹水濾過濃縮再静注法	2人	27.5日	29.0日	0.0%	84.0歳	
-	-	-	-	-	-	-	
-	-	-	-	-	-	-	

内科的な治療が主であるため、手術件数は少ないです。内科で実施される手術については、対症療法としての手術がほとんどです。
※1症例以下は掲載しておりません。

■外科

Kコード	名称	患者数	平均術前日数	平均術後日数	転院率	平均年齢	患者用パス
K672-2	腹腔鏡下胆嚢摘出術	65人	1.5日	4.0日	1.5%	59.9歳	
K6335	ヘルニア手術（鼠径ヘルニア）	61人	0.1日	1.4日	0.0%	66.7歳	
K719-3	腹腔鏡下結腸悪性腫瘍切除術	17人	4.2日	19.5日	0.0%	72.3歳	

最も多いのは腹腔鏡下胆嚢摘出術です。当院では胆嚢は強い胆嚢炎も含む全症例を、単孔式腹腔鏡下胆嚢摘出術を行っており、平均術後日数は4日となっております。
2番目は鼠径ヘルニアの手術であり、こちらは平均術後日数が1.4日とかなり早期で退院されていることが分かります。
3番目は腹腔鏡下結腸悪性腫瘍切除術です。平均在院日数19.5日となっていますが、一入院の中で術後化学療法の実施の有無で術後日数には差があります。術後化学療法を実施しない場合は17.7日、する場合は24.5日の平均術後日数となっております。

■整形外科

Kコード	名称	患者数	平均術前日数	平均術後日数	転院率	平均年齢	患者用パス
K068-2	関節鏡下半月板切除術	220人	1.1日	13.7日	0.0%	51.4歳	
K066-21	関節鏡下関節滑膜切除術（膝）	204人	1.0日	10.7日	0.0%	26.5歳	
K079-21	関節鏡下靱帯断裂形成手術（十字靱帯）	114人	5.4日	29.2日	0.0%	24.5最	

上位3つ全てが膝疾患に対する手術となっており、整形外科の手術症例790件のうち、約7割をこちらの3つが占めています。当院ではスポーツ・膝疾患治療センターを開設していることもあり、膝の傷害（ケガ）で来院される患者さんが多く、それに伴い手術件数も多くなっております。
3番目の関節鏡下靱帯断裂形成手術（十字靱帯）は、一入院の中で期間を空けて別の膝疾患に対する手術を実施するケースがあるため、平均術後日数が29.2日と上位2つと比較すると長めになっています。

■産婦人科

Kコード	名称	患者数	平均術前日数	平均術後日数	転院率	平均年齢	患者用パス
K8982	帝王切開術（選択帝王切開）	35人	6.9日	7.8日	0.0%	33.5歳	
K8981	帝王切開術（緊急帝王切開）	23人	2.4日	8.1日	0.0%	33.0歳	
K877	子宮全摘術	11人	1.6日	8.0日	0.0%	45.6歳	

最も多いのは選択帝王切開で、あらかじめ帝王切開を予定していた場合はこの術式名称となります。こちらは双胎妊娠や、前回のお産も帝王切開だった患者さんに実施します。
2番目が同じ帝王切開でも緊急で帝王切開を実施する場合の術式名称です。経腟分娩の途中で、陣痛が弱くなってしまったり、何らかの異常により分娩が停止してしまった場合等に緊急で帝王切開へと切り替えます。
どちらの帝王切開においても、平均術後日数、平均年齢に大きな差はありません。
3番目に多いのは子宮全摘術で、子宮筋腫（子宮平滑筋腫）の患者さんへの実施がほとんどです。

■眼科

Kコード	名称	患者数	平均術前日数	平均術後日数	転院率	平均年齢	患者用パス
K2821	水晶体再建術（眼内レンズを挿入する場合）（その他のもの）	52人	0.0日	2.7日	0.0%	78.6	
-	-	-	-	-	-	-	
-	-	-	-	-	-	-	

眼科の入院において実施される手術は白内障に対する上記の手術のみとなっております。通常、2泊3日の入院期間で実施しています。（片目の場合）

その他（ＤＩＣ、敗血症、その他の真菌症および手術・術後の合併症の発生率）

ファイルをダウンロード

DPC	傷病名	入院契機	症例数	発生率
130100	播種性血管内凝固症候群	同一	0人	-
		異なる	1人	0.04%
180010	敗血症	同一	6人	0.25%
		異なる	7人	0.29%
180035	その他の真菌感染症	同一	0人	-
		異なる	0人	-
180040	手術・処置等の合併症	同一	5人	0.21%
		異なる	0人	-

厚生労働省の平成26年度DPC対象病院におけるデータ集計では、全国の発症率はDIC（播種性血管内凝固）が0.17%、敗血症は0.56%、手術処置等の合併症は0.70%となっています。
全国の発症率と比較してみても、当院の発症率はいずれも低く抑えられていることが分かります。
これら合併症については、臨床上ゼロにはなりえないものですが、少しでも改善できるよう努めています。

◇集計方法・定義
・医療資源を最も投入した傷病名がDIC、敗血症、その他の真菌症および手術、処置後の合併症の患者数と発症率を集計しました。
・入院のきっかけとなった傷病名が「同一」か「異なる」かに分類して集計しております。

更新履歴

2016/10/01　　病院指標　公開